

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	運用	適正 使用 措置	感染症(HT)	出典	概要
												インフルエンザ	Science 2007; 315: 655-659	1918インフルエンザウイルスのヘマグルチニン受容体結合部位のごくわずかな変化により、ウイルスの伝播性が変化するが示された。2つのアミノ酸変異によって、ヒトの α -2,6シアル酸からトリの α -2,3シアル酸へと転換すると、フェレット間で呼吸器飛沫による感染を起こさないウイルスとなった。さらに、 α -2,6および α -2,3双方に特異性のある1918ウイルスは感染性が低かった。ヘマグルチニン受容体特異性が、哺乳類におけるインフルエンザ伝播に本質的な役割を果たす。
												鳥インフルエンザ	Transfusion 2007; 47: 452-459	血漿製剤の製造中に通常使われるウイルス不活性化処理、即ち、ヒトアルブミンの低温殺菌、静注用免疫グロブリン(WIG)のSD処理、第VIII因子インヒビターバイパス複合物(VIG)の蒸気加熱、及びVIGの低pHインキュベーションが、H5N1インフルエンザウイルスの不活性化に有効かを再集合体株を使って調べた。その結果、H5N1インフルエンザウイルスは、エンペロープウイルスと同様の挙動を示し、これらのウイルスの不活性化処理によって効果的に不活性化された。
												鳥インフルエンザ	Eurosurveillance 2006; 11(12): 061221	2006年11月29日時点でH5N1型トリインフルエンザウイルス感染者259名がWHOに報告され、50カ国以上で鳥類での感染が確認されており、うち10カ国では鳥類がヒト患者発生の感染源となっている。EUでは、同ウイルスは家禽には感染定着しておらず、2006年春季に少なくとも15カ国で野鳥の感染が確認されたが、ヒト感染症例は発生していない。家禽の感染予防が成功し、感染は5件のみで迅速に制圧された。散策例の報告が続いていることから、生物学的安全確保対策と早期警戒システムを堅持する必要がある。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070120.0260	2007年1月18日、農林水産省は、宮崎県の養鶏場で発生したトリインフルエンザは高病原性ウイルスによるものだったと明らかにした。同省は養鶏場で死亡した鶏から採取したウイルスのサンプルを検査して病原性が高いものであることを確認した。H5N1型ウイルスの流行は、宮崎県清武町の谷口野鳥場黒坂農場で発生し、3つある鶏舎のうち1つで3500羽の鶏が死亡した。